

# 紀北農芸高等学校

実施日時	平成30年 12月 12日(水)
参加者	生徒100名、教職員10名、中飯降地区自治会16名 計126名
実施内容	避難所運営ゲーム・AED講習・応急処置講習

## 事前の取組

- ・高校生防災スクール実施の意義と班分け(LHR)

## 主なプログラム

- 1、防災LHR  
「生徒の行動マニュアル」の学習
- 2、班別訓練  
班別に下記のプログラムを体験する。
  - (1) 避難所運営ゲーム
  - (2) AED講習
  - (3) 応急処置講習

## 参加者感想文

### ○避難所運営ゲーム

避難所運営ゲームでは、まだ届いていない物を欲しいと言われたり、日本語が話せない人がいたりして、どうすればいいのかわからなかったし、認知症などの病気の人は、別の部屋へ行ってもらわないといけなかったのが大変でした。それに、ペットは別の所にしないといけないし、両親をなくした子供はどうしたらいいのかわからなくて、誰をどの部屋に行ってもらおうかを考えるのは、とても大変でした。

そして、避難所に食糧が届いても人数分の食糧が無く、一家族に一個などと考えるのも難しかったです。この経験から、災害が起きたときは皆の助けを少しでもしたいです。

( 1年 女子 )

### ○AED講習

先日私は救急救命についての講習を受けました。私は以前、中学校三年生の時に一度救命救急の講習受けたことがあるので、ある程度知っていました。今回、伊都消防の方々が来て下さって、救命救急についての大切さを詳しく教えて下さり、今まで知らなかったことや、前回の内容よりも詳しく教えて下さったので、すごくわかりやすかったです。

実技では、胸骨圧迫をまず教えてもらいました。以前私が中学校の時に講習を受けたときは、全部真ん中の位置を押すだけのよう感じでしたが、今回は単3電池一つ分が沈むくらいまで押しといったように具体的にかつ、わかりやすい教え方をしてくれました。押すときに肘が曲がらないように押すというのがなかなか出来ず、前回は出来ませんでした。DVDを見せていただき、上手く出来たと思います。

あと、AEDの使い方ですが、私が前回使ったAEDと違い、上手く出来るか不安でしたが、一つ一つをDVDや実技で教えていただき、とてもわかりやすかったです。私は胸骨圧迫をしながらAEDを使う時、体に触れてはいけないときに触ったりしてしまいました。

あと、AEDを使うことで、胸骨圧迫も続けてやらなくてはならなくて、前の子と協力するのがとても難しく、人命救急は大変なものだと知りました。前回と今回習った人命救急の方法をこれから活かして、いざというときに行動できればいいなと思いました。 ( 1年 女子 )

## ○応急処置講習

応急処置の仕方の説明を聞いて、いろいろな方法があることがわかりました。止血の仕方、包帯の巻き方・縛り方・解き方を教えていただきました。直接圧迫止血法・間接圧迫止血法などの止血の仕方があり、一番印象に残っているのは、頭部で浅側頭動脈を押さえると止血が出来るということです。

包帯では巻き方までは簡単でした。でも、最初にしなければいけない三角巾をたたまなくてははいけません。私はたたむくらい簡単なことだと思っていたのですが、実際に三角巾のたたみ方を教えていただき、やってみると難しかったです。私は出来ないことがとても悔しかったので、先生に必死に教えてもらいながら覚えしました。包帯以外に、サランラップやレジ袋などでも手当が出来るらしく、そのところもよく聞いていました。包帯を巻くときに傷にティッシュやコットンなどを当てるのではなく、包帯を巻く前にガーゼを当てようと思いました。他にも頭部のけがにはストッキングが便利と教えていただきました。

実際に応急処置をしてみて、深い傷の手当てが大変だなと思いました。私はこの経験を活かして、もし深い傷で血を流している人がいれば、先生に教えていただいた応急処置をして、助けたいと思います。もっと気になる事がいっぱいありましたが、次は自分でも調べて勉強したいと思いました。

( 1年 女子 )

## 成果と課題

例年に比べ、地域の方が積極的に参加していただけだと思います。実際に参加人数も増加しており、講習会等でも前進的な質問も出されていました。

避難所運営ゲームでは、防災の知識に乏しい生徒を、各グループ毎に分散した地域の方々がリーダーシップを発揮し、生徒を先導していただきました。

AEDや応急処置の実技を伴う講習会では、生

徒と一緒にやりながら、取り組まれていました。

その中で、生徒と地域の方々とのコミュニケーションは十分に構築することが出来たと思います。

その反面、実施内容の検討が遅れたため、要請はしたものの日程の折り合いがつかずに、今年度も隣接する農林大学校との共催が出来ませんでした。

また、生徒に対しての事前指導の回数がとれず、防災に対しての知識を構築していない状態のまま参加させたことで、参加意欲の低い生徒が数名見られました。

次年度以降は、早期に本校・県農林大学校・中飯降地区自治会との打ち合わせを行うとともに、参加生徒の防災意識を高めるための防災LHRを計画・実施していく必要があると思います。

(1) 避難所運営ゲーム



(2) AED 講習



(3) 応急処置講習

